

## 牛道春秋

## 駐在妻の欄

▼生クリームが大好きな長女にとびきり美味しいケーキを食べさせてあげようと思い、2人で名古屋まで行きました。▼名古屋駅に到着し、一目散にケーキ屋さんに向かいましたが、オーブン直後にも関わらず既に満席でした。▼朝一からケーキを食べようとする卑しい人達の多さに圧倒されながらも大人しく列に並びました。▼ようやく席につきメニューを見た長女は1セット千円以上するケーキの値段を見て、細い目を目一杯見開き絶句していました。

▼長女は何とか心を落ち着かせてメニューを選び、ケーキの到着を神妙な顔をして待っていました。▼しばらくしてケーキが届き、白鳥を出てから2時間半、ようやくありつけた高級ケーキを厳かに口に運びましたが長女の表情は晴れません。▼そして、長女が口にした言葉は「もう二度と御免だわ。」でした。▼なんと長女のお口には高級ケーキは合わなかったのです。▼これは日ごろから高級なモノを食べさせていない主人のせいと思われれます。▼私たちはケーキ屋さんを出ると、どこにも寄らずに白鳥に帰り、近所のドラッグストアで買った半分のイチゴが載ったショートケーキを美味しくいただきました。▼その時、主人はケーキの周りのラップに付いた生クリームをフォークでこそぎ落とし卑しく舐めていました。